

慢性腎臓病は新たな国民病

まずは一度、受けてみませんか？

腎専門医が欲しかった



作りました！

腎ドックのロゴは株式会社レノプロテクトの登録商標です

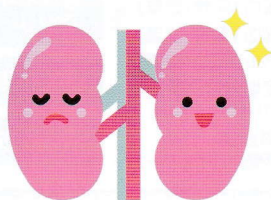


は、腎臓専門医が

腎臓だけにターゲットをあてて作った検査です。

慢性腎臓病の患者数は約1,300万人

通常の検査だと異常に気付いた時点で
腎機能は半分…なんてことも



レノプロテクト腎ドックなら /

一度に複数の検査で
あなたの腎臓を多面的に評価！

「ウロモジュリン」が
測定できる！

関連特許
第7031303号

ウロモジュリンは、腎臓でのみ作られる物質の中で、腎機能を評価できる唯一の蛋白質です。腎臓由来だからこそ、腎臓の生の声を直接聞くことができます。

当院で「腎ドック」が受けられます

結果レポートは腎臓専門医が
あなたのために個別作成

検査費用は受付窓口でお聞きください。保険証が使えない検査です。

慢性腎臓病（CKD）を知っていますか？



血液透析患者数は約35万人、その予備軍とも言えるCKD患者数は**約1,300万人**、まさに国民病です。尿蛋白陽性、もしくは、推算糸球体ろ過量（eGFR）が60mL/分/1.73㎡未満がCKDの診断基準です。CKDは放置しておくとう無症状のまま進行し、血液透析を要する末期腎不全に陥ることがあります。また、腎臓病は腎臓だけにとどまらず、全身に悪影響を及ぼし、心疾患・脳卒中・骨粗鬆症・認知症・感染性の発症リスクが2～4倍以上に跳ね上がることも問題です。新たな生活習慣病として重要な疾患です。

従来検査の問題点

1つの検査で全てがわかる、そんな万能な検査はありません。一般的な腎機能検査では、クレアチニンとこれから算出した推算糸球体ろ過量（eGFR）が用いられます。クレアチニンには、腎機能が半分近くまで低下しないと測定値が上がりにくく、軽度の腎機能低下を検出できないブラインド領域と呼ばれる検査限界があることをご存じでしょうか。つまり、毎年健康診断を受けていても、「腎機能低下をはじめて認識した時点で腎機能は半分しか残っていなかった!」ということが起こりえるのです。また、クレアチニンは筋肉由来の老廃物のため、体格（筋肉量）に影響を受けることも時々問題となります。失った腎機能は回復しませんから、健康な時から定期検査で現状を把握していくことと、未病には未病段階の評価が得意な検査（シスタチンC及びウロモジュリン）を選択することも有用です。

検査	クレアチニン	シスタチンC	ウロモジュリン
得意	慢性腎臓病の診断と定期検査に適している	未病段階の腎機能評価に適している	腎機能推移の評価に適している
不得意	未病段階の腎機能の評価が苦手	eGFR60未満では利用価値が乏しい	測定値から腎機能を予測するのが苦手



とは、

腎臓専門医が腎臓だけにターゲットをあてて作った検査パッケージです。通常の健康診断や人間ドックよりも詳しく調べ、腎臓を守るための生活習慣の見直しや疾病管理目標の再認識に繋がります。結果報告書は、あなたのために腎臓専門医が個別作成しており、より適切に結果の解釈ができます。

腎ドックプランの紹介

- 受診される医療機関によって受けられるプランや検査内容が異なる場合があります。
- 保険証が使えません（自由診療検査）。● 検査内容と費用は医療機関にてご確認ください。

一般的な健康診断

- クレアチニン
- eGFR
- 尿蛋白（定性）



スタンダード

- クレアチニン
- クレアチニン換算eGFR
- シスタチンC
- シスタチンC換算eGFR
- ウロモジュリン
- 尿素窒素
- 尿蛋白（定性・定量）
- 尿潜血（定性・沈渣）
- 尿アルブミン（定量）
- 推定塩分摂取量

無料オプション検査

24時間クレアチニンクリアランス・疾患感受性バイオマーカー

腎機能チェック

慢性糸球体腎炎スクリーニング

1日塩分摂取量評価

時系列データ*



エントリー

- クレアチニン
- クレアチニン換算eGFR
- シスタチンC
- シスタチンC換算eGFR
- ウロモジュリン

腎機能チェック

時系列データ*

*リピーターにのみ提供されるサービスです。

腎ドックの特徴

（プランによって内容に差があります）

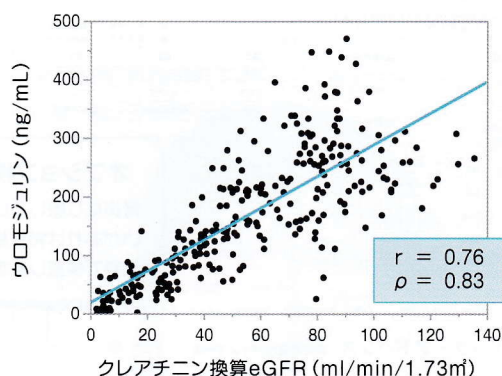
- 3つの腎機能検査により腎機能を多角的に評価します。
- 検査項目が多く、より詳しく知ることができます。
- 無料のオプション検査が受けられます。
- 新しい腎機能検査ウロモジュリンを測定します。
- 一般的な健康診断では評価が不十分な未病の評価も試みます。
- リピーターには時系列データの解釈についても解説します。
- 腎臓専門医が結果報告書を個別作成します。
- 腎臓専門医が質問や相談にお応えします。

ウロモジュリンが測定できるのは
この腎ドックだけです

血中ウロモジュリンのご紹介

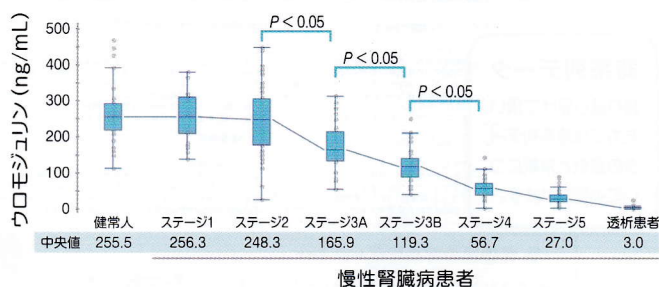
血中ウロモジュリンは、株式会社レノプロテクトが開発した新しい腎機能検査です。血液中のウロモジュリン濃度が腎機能（eGFR）と高い正の相関関係にあることが報告されています。

腎機能評価のためにeGFR値の計算を要するクレアチニンやシスタチンCとは異なり、ウロモジュリンは計算を要しません。測定値をそのまま腎機能の余力と捉えることで、直感的に腎機能の推移が評価できます。



クレアチニン換算eGFRによるCKDステージ別に血中ウロモジュリン濃度を解析したのが下図です。腎機能が悪化していくと、ウロモジュリン濃度は低下していきます。測定値の幅がとて広いため、数値変動を把握しやすい点もメリットです。

ウロモジュリンに正常及び病的基準値の設定はありませんが、150ng/mLを下回ると、ステージ3以降への進行を示唆します。120~130ng/mLを下回るとほぼ全例が慢性腎臓病に該当します。



Usui R. Clin Exp Nephrol. 2021;25:28

ウロモジュリンとは…

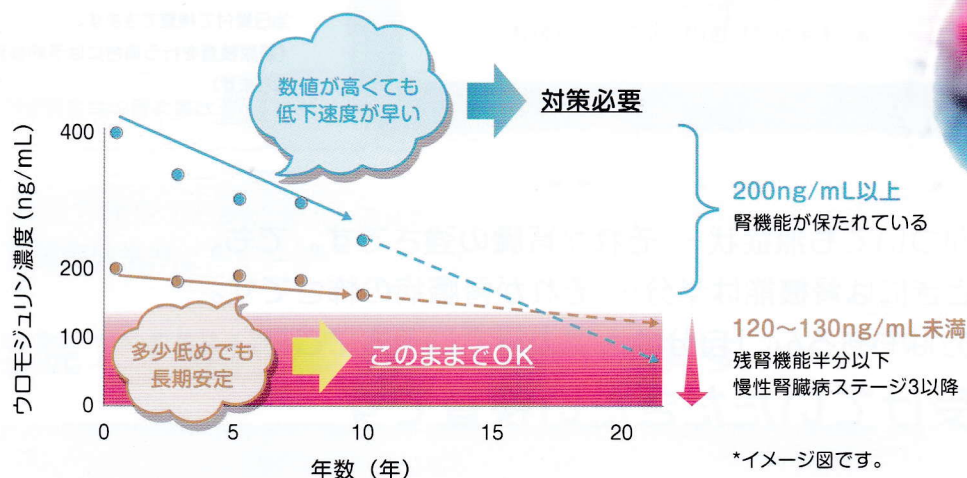
腎臓でのみ作られている蛋白質です。腎臓の中でも尿細管という尿が通る構造にのみ存在し、そのほぼ全量が尿中に捨てられますが、ごく一部が循環血液中に移行します。この腎ドックで測定されるウロモジュリンは、血液中の濃度を測定しています。

ウロモジュリンの利用方法

腎機能が良い群ではウロモジュリン値が200~400ng/mLと幅広ですが、これは個体差と考えられています。腎機能が保たれていれば、ウロモジュリンは200ng/mLでも400ng/mLでも同等ということです。つまり、初回測定値が200ng/mLであっても、その後に変動が少なく、中長期的に低下が目立たなければ、その後も腎機能は保持できると予想されます。一方で、初回測定値が400ng/mLと高くても、数値低下が目立つようであれば、腎機能の低下が進んでしまうかもしれません（確実に未来予測できるわけではありません）。

加齢にともない腎機能は徐々に低下することが分かっていますから、ウロモジュリンは長期的には徐々に低下します。なるべく若い時に自分の最高値を確認しておくことをお勧めします。健康な時から腎機能の余力を数値化し、腎機能の推移を評価することにメリットがある検査です。

なお、ウロモジュリンがどの程度下がった時点でクレアチニンやシスタチンCが上昇してくるかは人によります。



クレアチニン・シスタチンCにウロモジュリンを追加することで
腎機能の評価がより向上します。

血中ウロモジュリン測定は、研究検査です。



